

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	観光プロモーション事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部署名	産業環境	事業実施 (予定)年度	令和3～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光誘客を図るため、観光イベント等においてプロモーション活動を行う。また、観光客の利便性の確保のため、町の観光主要施設等への誘導案内板等を整備する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(令和6年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	13,925	13,294	25,786	36,433	
		(b) 予算現額	11,348	13,294	29,881	64,762	
		(c) 増減額(b-a)	-2,577	0	4,095	28,329	
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	11,348	13,294	29,881	64,762	
	B. 執行済額		10985	11,207	29,614	64,762	
	うち交付金充当額		8788	8,965	23,691	51,809	
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)		96.8%	84.3%	99.1%	100.0%	
予算の状況の説明		新町通りのモニュメント及び誘導案内看板を設置するため、工事請負費28,329千円の増額変更を行った					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	観光イベントへの出展	目 標	()	(3回)	(8回)	(7回)	
		実 績		3回	8回	8回	
	誘客イベントの実施	目 標	()	()	(1回)	(2回)	
		実 績			2回	2回	
達成状況説明	当初、イベント出展(8回)、誘客イベント開催(1回)、観光案内板等設置工事実施設計の完了を活動目標としていたが、実績として誘客イベントを2回開催し、その他は計画通りの活動ができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (7年度)
	【R6成果目標】 町入域観光客数、592千人以上	目 標	()	(792千人)	(542.8千人)	(592千人)	(587千人)
		実 績		550千人	590.4千人	633千人	
	【R6成果目標】 誘客イベント来場者数、2.4千人	目 標	()	()	()	(2.4千人)	()
		実 績				6.7千人	
	進捗状況説明	成果目標町入域観光客数592千人に対し、633千人、誘客イベント来場者数2.4千人に対し6.7千人と両項目において目標達成となった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナの影響も落ち着きを見せたことで、観光客や修学旅行等の需要回復が見られた。 ・観光施設において、来場者より場所がわかりにくい等の声があった。 ・プロモーション事業におけるツールについて、有効的な活用だけではなく、更なる周知の波及効果を高める必要がある。	・紙媒体だけでなく、SNSなどを活用し、本町はもとより、沖縄に来訪しなくても情報を手に入れられるような情報発信方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・令和7年度においても、引き続き観光協会にプロモーション活動を行ってもらう。 ・同パッケージ内にてプロモーションツールとして、ガイドブック、動画の作成を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>64,762</td><td>64,762</td><td>51,809</td><td>12,953</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	64,762	64,762	51,809	12,953	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
64,762	64,762	51,809	12,953											
嘉手納町 64,762千円 委託料 35,102千円 （一社）嘉手納町観光協会 35,102千円 観光プロモーション事業委託 委託料 1,280千円 沖電企業（株） 1,280千円 観光情報等発信強化事業委託 工事請負費 28,380千円 （有）伊礼組 28,380千円 新町通りモニュメント等設置工事														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者他社では実施できないものであり妥当であった。 ○工事は指名競争入力で実施しており妥当であった。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-②	観光振興推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア
担当部署名	産業環境課	事業実施 (予定)年度	令和5～令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立	
事業内容	本町の観光振興を推進するため、嘉手納町観光振興基本計画を策定する。					
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和7年度)					
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度	R6年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	11,000	11,000		
		(b)予算現額	11,000	11,000		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0
		(d)繰越額				
		A.計(b+d)	11,000	11,000	0	0
	B.執行済額		10890	11000		
	うち交付金充当額		8712	8800		
	次年度繰越額		—	—	—	—
	執行率(%) (B/A)		99.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初予定通り執行した。				
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況			
	計画策定	目 標	()	(実施)	()	()
		実 績		実施		
	基礎調査の実施	目 標	(実施)	()	()	()
		実 績	実施			
	達成状況説明	計画策定まで実施した。				
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	計画策定完了	目 標	()	(調査完了)	(計画策定完了)	()
		実 績		調査完了	計画策定完了	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()
		実 績				
	進捗状況説明	計画策定まで実施した。				

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	【観光振興に対する町民・事業者の意識向上】 町民や町内事業所の観光振興に対する理解度を向上させていく必要がある。 【人材育成や推進体制の強化】 観光協会と連携できる推進体制整備する必要がある。 【周辺市町村との連携】 周辺市町村との連携構築を進める必要がある。 【重点プロジェクト以外の施策の取組の具体化】 取組内容について深堀ができていない取組が多かった。 【事業予算の確保】 取組の具体化や必要性が明確になっていないため、予算確保が難しい。	【観光振興に対する町民・事業者の意識向上】 ・住民も参画できる取組の推進 ・ワークショップや意見交換会等の開催 【人材育成や推進体制の強化】 観光協会の体制の拡充を図るとともに、商工会を始めとした町内関係者と連携し、観光振興に係る役割分担を明確にした実行体制作りを検討する。 【周辺市町村との連携】 本町の位置づけや役割を検討したうえで、周辺市町村との相乗効果を図るための観光推進の連携内容を検討する。 【重点プロジェクト以外の施策の取組の具体化】 地域資源の保全・継承を図っていくための施策及び地域資源を活用した観光コンテンツの磨き上げを検討する。 【事業予算の確保】 取組の具体化・必要性について明確化し、観光振興事業を推進するための予算化を検討する。
今後の取り組み方針		
策定した計画を踏まえ、町の観光振興について町民、町内事業所と引き続き取り組んでいく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>11,000</td><td>11,000</td><td>8,800</td><td>2,200</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,000	11,000	8,800	2,200	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,000	11,000	8,800	2,200											
嘉手納町 11,000千円 委託料 11,000千円 (株)オリエンタルコンサルタンツ 11,000千円 第3次嘉手納町観光振興基本計画策定委託業務														
資金の流 れ・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実		
事業内容	児童生徒の学力向上を図るため、教師と連携を図りながらチームティーチングを行うとともに、夏休み等に個別指導や放課後の補習授業を行う学習支援員を小中学校に配置した。 ※チームティーチング:複数の教職員が役割を分担し、協力し合いながら指導する方法						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額	17,983	17,421	21,458	25,315	32,711
		(b)予算現額	16,017	14,442	24,549	26,164	31,990
		(c)増減額(b-a)	-1,966	-2,979	3,091	849	-721
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	16,017	14,442	24,549	26,164	31,990
	B.執行済額		16017	14442	24306	26,545	30,362
	うち交付金充当額		12048	11553	19445	21,236	24,290
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.0%	101.5%	94.9%
	予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
学習支援員の配置数 小学校:6人 中学校:3人		目標	(小学校4人 中学校2人)	(小学校6人 中学校3人)	(小学校6人 中学校3人)	(小学校6人 中学校3人)	
		実績	小学校4人 中学校2人	小学校6人 中学校3人	小学校6人 中学校3人	小学校6人 中学校3人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・学習支援員を本町小学校に6名(2校に3名)、中学校に3名(1校に3名)配置した。 ・小学校においては、学級担任とのチームティーチングとして個別の対応や放課後の補習指導を行った。 ・中学校においては、学習内容の定着が十分でない生徒を対象に、学級内で個別のチームティーチングを通じての学習支援や放課後(毎週月、水、金)、長期休業中の補習、数学検定対策講座を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差 小学校: 県平均並み、それ以上 中学校: 県平均-5ポイント以内	目標	()	(小:-0.5 中:-7.1)	(小:県平均並み 中:県平均-3)	(小:県平均並み 中:県平均-3)	()
		実績		小:+4.4 中:-3.7	小:-0.7 中:-2.3	小:-1.1 中:-3.9	
	小学校: 正答率30%未満の児童の割合県平均より減少 中学校: 正答率30%未満の生徒の割合県平均より減少	目標	()	()	小:県割合より減少 中:県割合より減少	小:県割合より減少 中:県割合より減少	()
		実績			小:県割合より減少 中:県割合より微増	小:県割合より減少 中:県割合より増	
	進捗状況説明	令和6年度 沖縄県到達度調査の県平均と比較すると、小学校はわずかに目標達成できなかったが、中学校は目標値を達成することができた。 令和6年度 沖縄県到達度調査(2月)の結果 ○小学校・・・小5算数:県平均 41.2%、本町 40.1%[-1.1ポイント]、正答率30%未満の児童の割合県より減少 ○中学校・・・中2数学:県平均 27.8%、本町 23.9%[-3.9ポイント]、正答率30%未満の生徒の割合県より増 学習支援員と管理職が支援の在り方を共有することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①小学校においては、-1.1と県平均をわずかに下回り、目標を達成できなかった。しかし、学級担任が授業を進めながら、学習支援員が対象児童を1箇所に集め、児童にあった丁寧な個別指導を行う体制が図れている。両校のうち、1校は、給食時間や放課後等の隙間時間を活用し、学習支援が個別に対象児童の補習にあたっている。 ②中学校においては、県との差が-3.9ポイントとなり、目標を達成できなかった。生徒の補習の在り方や対象生徒の洗い出し等工夫や改善を行い、補習を対象生徒のみだけでなく、生徒が自主的に参加するように掲示や開催を促す案内状を作成し配布するなど行った。夏休みの補習も実施し、参加する生徒が増えた一方、正答率30%以下の生徒は継続して参加できなかった。	①学習支援員の役割、授業における役割の共通確認を強化し、対象児童生徒を明確化する事で、年々成果が出ていたが、小学校同士取組においてうまくいっている学校の効果的な取組を紹介し合う等、連携をさらに図っていく。 ②これまでの取組で効果があった取組の継続と、中学校においては取組を1年間を通してコツコツ繰り返し取り組み、夏休み、放課後の補習に正答率30%以下の生徒の洗い出しをしっかりと行い、補習への確実な参加を促す工夫改善を図る。
今後の取り組み方針		
①学習支援員の役割の明確化、授業時の児童生徒への支援の在り方等管理職、教科、学級担任と連携し共有する場を継続して実施する。 ②小学校毎において、取組の共通性が図れていない部分があったので、教育委員会が担当教諭、学習支援員の役割、管理職と学習支援員の活用について協議を行い、小学校同士の連携を図り、うまくいっている取組の共有など支援、助言を行う。運用にあたっての学習支援員との情報共有の場連絡会を設け指導体制の統一を図る。 ③前年度しっかり定着してきた、補習や隙間時間を活用しての取組において、定着が不十分な児童生徒、学習に不安をもつ児童生徒への補習を継続して個に応じた指導を丁寧に実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		33,243	30,362	2,881
		交付金充当額	市町村負担金	
		24,290	6,072	
嘉手納町 30,362千円 報酬 18,771千円 職員手当等 7,416千円 共済費 3,862千円 旅費 313千円 交付対象外経費 (学校行事等) 2,881千円 【屋良小】 報酬6,474千円 【嘉手納小】 報酬6,625千円 【嘉手納中】 報酬5,672千円 【屋良小】 職員手当等2,585千円 【嘉手納小】 職員手当等2,627千円 【嘉手納中】 職員手当等2,204千円 【屋良小】 共済費1,332千円 【嘉手納小】 共済費1,342千円 【嘉手納中】 共済費1,188千円 【屋良小】 旅費128千円 【嘉手納小】 旅費43千円 【嘉手納中】 旅費142千円 学習支援員 屋良小学校3名 嘉手納小学校3名 嘉手納中学校3名				
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支援員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援配置事業に必要なものに限定されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	英語力強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	教育課程特例校として小学校では英語に親しむ環境をつくり、中学校は実用的な英語を学ぶため、英会話指導員を配置し、同時に中学校は個別の学習支援、英会話の実践化のための英語指導員を配置し、児童生徒の英語への興味・関心を高め、英語力向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,358	12,371	8,841	10,365	11,791
		(b)予算現額	12,179	9,497	9,502	10,009	10,769
		(c)増減額(b-a)	-1,179	-2,874	661	-356	-1,022
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	12,179	9,497	9,502	10,009	10,769
		B.執行済額	12179	9455	9396	9,678	10,077
		うち交付金充当額	9127	7563	7517	7,742	8,061
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.0%	99.6%	98.9%	96.7%	93.6%
	予算の状況の説明	人事院勧告に伴う人件費変更を反映させ事業期間を2月までとしたことから、事業費を721千円減額を行った。予算の執行については、適切に管理している。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	英会話指導員配置数 小学校2人、中学校1人	目標	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	
		実績	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	英会話指導員(ALT)を小学校2名、中学校1名配置した。 小学校では、学級担任とALT,英語指導員とで連携し外国語の授業及び外国語活動の展開している。 中学校では、担当教師とALT,英語指導員で、英会話の授業を展開している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	英語に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、本人のアンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		82%	85%	86%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	小学校では、英語への興味や学習意欲が高く、特に1・2年生における英会話授業や英語に関しての関心度で95%、3・4年生でも81%以上が肯定的に回答した。また、「英語で話す・聞く・読む・書く」ことへの意欲も80%以上と高い。 中学校でも同様に、英語で自分の考えを表現することへの意欲が90%以上と高く、目標を達成している。コミュニケーションをとることへの意識が高い一方で、学校外で英語を使う機会は依然として少ない状況にある。					

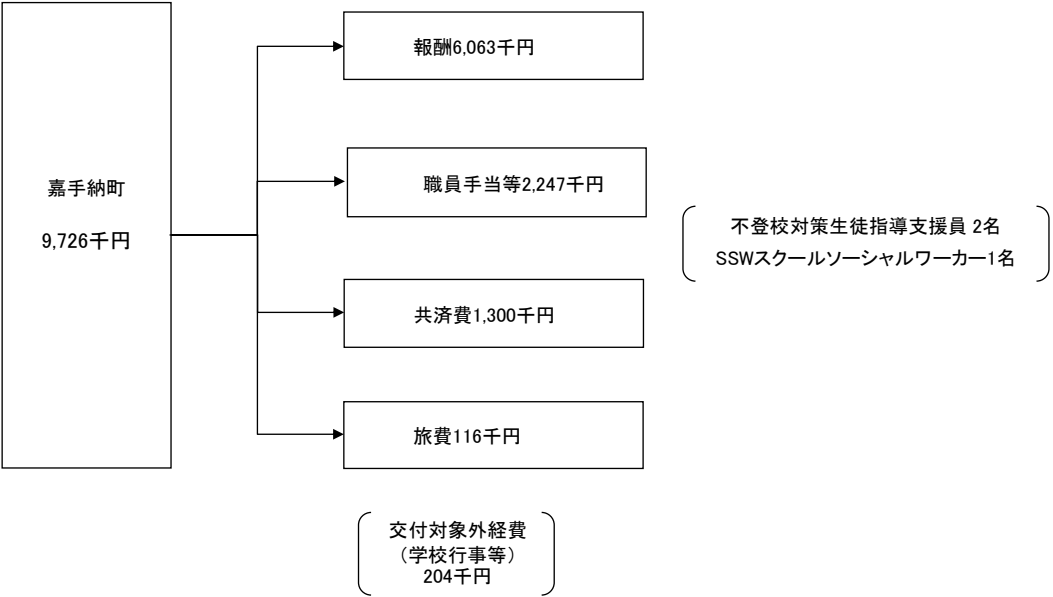
	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	・小学校のアンケート結果から、英語に関する興味関心は、前年度の85%から86%とさらに向上している。 ・特に、小学校低学年において、英会話指導員が日々の授業において英語教材に工夫を凝らし、担任と連携し児童の英語に対する興味関心が高まるような教材作成により児童が英語の授業を楽しく学ぶ環境が充実できていたことが意欲の向上につながった。 ・英会話指導員も小中で意見交換する場を持つことができた。 ・どうしても学校の授業以外での英語の活用は、小学校、中学校ともに依然として肯定的な数値は低い。	・小・中学校で連携した研修会を行い、英会話指導員と英語担当教師の連携を図り、各学校において、児童生徒が英語に親しむ環境づくりを行う。 ・英会話指導員は、担当教諭と連携を図り授業の中で、「英会話」を実践し、かつ児童生徒が実際に活用（アウトプット）する場合（授業）づくりを行う。 ・児童生徒の英語力向上のため、4技能のどの部分で落ち込みがあり、どのように指導を行えばいいか課題の検証を図る必要がある。 ・英語アンケートを担当教諭と見直しを図ることで児童生徒につけたい力の確認ができたので令和7年度も共有を図る。
今後の取り組み方針		
①4技能の落ち込みを図るためのテストを実施し、それをもとにエビデンスを明確にし、効果的な授業方法づくりのために、小学校英会話指導員と英語担当教諭を対象とした「研修会」を今年度は専門指導主事を招聘し、小学校ALTのスキルアップ研修会の充実を図る。 ②「ALT研修会」の中で、授業づくりとコミュニケーション力をつけるため、児童生徒が授業以外での会話をするための場面設定やカリキュラムなど共通で確認し意図的に英語の活用について達成を図る。 ③英語アンケートの英語アンケートを担当教諭と見直しを図ることで児童生徒につけたい力の確認ができたので令和7年度も共有を図る。		

資金の流れ														
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,717</td><td>10,077</td><td>8,061</td><td>2,016</td><td>640</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,717	10,077	8,061	2,016	640
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,717	10,077	8,061	2,016	640										
嘉手納町 10,077千円 報酬 6,077千円 職員手当等2,675千円 共済費 1,289千円 旅費 36千円 【屋良小】 報酬2,250千円 【嘉手納小】 報酬2,274千円 【嘉手納中】 報酬1,553千円 【屋良小】 職員手当等898千円 【嘉手納小】 職員手当等912千円 【嘉手納中】 職員手当等866千円 【屋良小】 共済費505千円 【嘉手納小】 共済費495千円 【嘉手納中】 共済費289千円 【屋良小】 旅費0千円 【嘉手納小】 旅費36千円 【嘉手納中】 旅費0千円 交付対象外経費 （学校行事等） 640千円 会計年度任用職員 英会話指導員3名														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費、旅費のみであり、指導員配置事業に必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	生徒指導強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
事業内容	不登校の生徒に対して家庭や関係機関と連携を図りながら特別な支援をしていくことで、学校復帰等の不登校の改善を図るため、指導支援員を配置した。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,194	2,341	4,908	8,304	9,904
		(b)予算現額	2,152	2,300	5,701	7,320	9,643
		(c)増減額(b-a)	-42	-41	793	-984	-261
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		2,152	2,300	5,701	7,320	9,643
	B. 執行済額		2148	2100	5646	7,278	9,726
	うち交付金充当額		1622	1679	4517	5,823	7,780
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.8%	91.3%	99.0%	99.4%	100.9%
予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	生徒指導支援員(寄り添い支援員)配置数 小学校1人 中学校:1人 スクールソーシャルワーカー(SSW) 配置数 教育委員会:1人	目標	(中学校1人)	(中学校1人 教育委員会1人)	(小学校1人 中学校1人 教育委員会1人)	(小学校1人 中学校1人 教育委員会1人)	
		実績	中学校1人	中学校1人 教育委員会1人	小学校1人 中学校1人 教育委員会1人	小学校1人 中学校1人 教育委員会1人	
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	不登校生徒や長期欠席者等の早期支援や未然防止等の支援の充実を図るために小学校と中学校へ生徒指導支援員を配置した。また、問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働き掛けたり、関係機関等とのネットワークを構築するために教育委員会へスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置し登校しても学級へ復帰できていない生徒に対して校内での居場所づくり、学習支援等の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	不登校出現率 2.7%以下	目標	()	(2.6%以下)	(2.7%以下)	(2.7%以下)	()
		実績		2.50%	3.0%	5.40%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・令和6年度の不登校児童生徒数は全体で74名で、不登校の出現率は5.4%となり、目標値を2.7%下回っている。 ・小中別では、小学校が51名で出現率5.3%、中学校が23名で出現率5.5%となり、いずれも目標を達成できていない。 ・中学校の不登校生徒のうち、15名は前年度からの継続、8名が新規の生徒である。 ・登校復帰したのは小中12名(小学校2名、中学校10名)で、登校支援や校内自立支援教室での学習支援など、生徒指導支援員(寄り添い支援員)、校内自立支援員、SSWの丁寧なかかわりによるところが大きい。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①不登校生徒の要因として「無気力」や「生活リズム」、「家庭の状況」等がある。迎えに行ったり強く催促すると登校するが長続きしない等、心因性や無気力の傾向が多く見られる。 ②不登校の解決に向けて児童生徒の家庭、学校、関係機関との連携が重要である。 ③学校へ登校したときの居場所において、人数によっては十分な支援ができないときがある。	①学級担任や生徒指導主任、生徒指導支援員とSSWとの情報共有を密にして児童生徒の支援につなげる。 ②不登校の支援については、SSWや関係機関との連携により、居場所づくりや自己肯定感を高める体験活動等が必要である。 ③学校から家庭との連絡を密にするなど、児童生徒に対する家庭との連携の強化を図る。 ④学校へ登校してきたが、まだ教室へ復帰できない児童生徒の居場所を確保し、その際の支援を充実させる必要がある。
今後の取り組み方針		
①学校やSSW、青少年センター、関係機関と連携した誰一人取り残さない支援を行う。(学校、教育委員会との定期的な情報共有の確実な実施) ②不登校児童生徒の家庭との連携を密にするため、生徒指導支援員とSSW、学校との情報共有の強化を図る。(児童生徒の顔が見える情報共有) ③理由なし欠席3日以上以上の児童生徒への家庭訪問の確実な実施により、家庭との連携を図る。 ④登校してきたが教室へ入れない児童生徒に対して教室以外の居場所を確保し、教室復帰にむけた学習支援、体験活動、教育相談などの支援を充実させる。 ⑤不登校支援員の確実な人員確保に努める。 ⑥学校と青少年センター、校内自立支援教室に属しない非行傾向にある生徒の職場体験を今年度も引き続き充実させる。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
9,930	9,726	7,780	1,946	204



資金の用途の流	評価	点検項目	評価に関する説明
点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、報酬と共済費、旅費のみであり、指導員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	2-④	秋田県交流学習体験事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア				
担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実				
					Ⅲ-3-(1)				
事業内容	小中学校における学習規律や授業の改善を図るため、本町の児童生徒及び教師を教育先進地である秋田県大館市内の学校へ派遣する。また、大館市の教師を招聘し、授業改善等についての研修を行う。								
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)								
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()								
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	予算の状況	(a)当初予算額				3,834	5,350		
		(b)予算現額				3,560	3,312		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	-274	-2,038		
		(d)繰越額							
	A. 計(b+d)		0	0	0	3,560	3,312		
	B. 執行済額					3,537	3,312		
	うち交付金充当額					2,830	2,650		
	次年度繰越額								
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	99.4%	100.0%		
予算の状況の説明		入札残が生じたため事業費1,977千円減額、また事業完了による精算で61千円減額し、合計で2,038千円減額を行っている。							
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	<秋田県への派遣> 児童生徒:20人、教員:9人 <秋田県からの招聘> 教員:3人			目標	()	()	(実施)	(実施)	
				実績			実施	実施	
				目標	()	()	()	()	
				実績					
達成状況説明	・9月に秋田県大館市より校長1名、教諭2名を招聘した。招聘した校長が本町の教諭へ教育講演会を行った。招聘した教師は、本町の教諭とのチームティーチングや教材研究、示範授業をおこなった。 ・10月に小中学生20名、教諭8名を秋田県大館市へ派遣した。児童生徒は、各学校で現地の小中学校で授業や学校行事を体験した。本町教諭は現地の教諭とのチームティーチングや教材研究、授業実践をおこない、校長教頭は小中それぞれの校長教頭との意見交換の機会をもち学校経営等について説明を受けた。								
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	①(派遣された児童生徒へのアンケート) ・「学習規律を学ぶことができたか」で80%以上ができたと回答			目標	()	()	(80%)	(80%)	()
				実績			100%	100%	
	②(授業改善に関するアンケート) ・「授業のねらいに合わせた学び合いの場の設定」に関する項目で80%以上の教師が取り組んでると回答			目標	()	()	(80%)	(80%)	()
				実績			90%	90%	
	進捗状況説明	参加児童生徒へのアンケートでは「人のことを大切にしている姿勢がすごかった」「途中で質問しない」などの聞く態度に関することや「発表者の答えを否定しない(受容と共感)」「聞いている人の反応や顔を見て発表する」などの話す態度に関することについて、学ぶことがたくさんあったと寄せられた。 参加教師へのアンケートでは80%が「授業の質向上に向けた、学校や教科の壁を越える取組」について参考になったと回答しており、「学級自治、学校自治、児童生徒の自治的組織づくりをぜひ学校で実践したい」「探求型の授業改善に生かしていきたい」「ふるさとキャリア教育のヒントをえた」など教育に対する意欲の高まりを示す感想が多くみられた。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	教師や児童生徒のアンケートでは成果目標を達成しており、「小1から小6まで縦割りで行う清掃活動」「授業のなかで子供たちにかかる、多くのほめ言葉（ボイスシャワー）」「生徒が主となる自治活動（生徒会活動）」「ふるさとキャリア教育」など体験から学んだことを実践しており、成果が感じられる結果となっている。	①引き続き児童生徒の派遣を実施し、多くの児童生徒に学習規律が学べる機会を提供していく。また、学んできたことを実践させるため、教師へのはたらきかけを強化する必要がある。 ②小中の学びの連続性を見ることで、成長の系統性を確認し、授業改善の必要性や改善への意欲の向上に資すると思われるため、実施が必要である。
今後の取り組み方針		
①体験してきた児童生徒が、学んできたことを広げるリーダーとしてのはたらきかけや、場の提供、すぐにアウトプットさせる話し合いの場や発表の場を設定し、助言支援する。児童生徒の学びを学校で、アウトプットさせる方法を学校と共有し広めていく。 ②小学校教師は中学校へ中学校教師は小学校へ移動して授業参観し、小中一貫の学びの連続性を本町の現状と比較させることで、小中連携した授業改善の必要性を授業改善研修会を持ち授業改善を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,763</td><td>3,312</td><td>2,650</td><td>662</td><td>451</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,763	3,312	2,650	662	451
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,763	3,312	2,650	662	451										
嘉手納町 3,312千円 → 委託料 3,312千円 → (有)スカイ観光サービス 3,312千円 〔 対象外経費 451千円 〕														
資金の流 れ、費 用・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、業者より見積を徴し、計上したものであり適正である。 ○使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
担当部署名	教育指導課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進	
事業内容	Ⅲ-3-(1)						
事業内容	発達障害等により特別な支援を要する児童生徒に対し、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、町内の各小中学校に特別支援教育支援員(教育サポーター)を配置した。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	38,129	37,186	27,644	36,266	44,432
		(b)予算現額	32,924	27,535	25,867	32,617	45,267
		(c)増減額(b-a)	-5,205	-9,651	-1,777	-3,649	835
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	32,924	27,535	25,867	32,617	45,267
	B.執行済額		32805	27361	25275	32,223	45,213
	うち交付金充当額		24815	21888	20220	25,778	32,931
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.6%	99.4%	97.7%	98.8%	99.9%
	予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。				
	活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況			
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
特別支援教育支援員配置数 小学校:14人、中学校6人		目 標	(小学校13人 中学校5人)	(小学校14人 中学校5人)	(小学校14人 中学校6人)	(小学校14人 中学校6人)	
		実 績	小学校13人 中学校3人	小学校14人 中学校5人	小学校14人 中学校6人	小学校14人 中学校6人	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	嘉手納小学校においては目標数の7名の特別支援員を配置に対し、約1ヶ月の不在期間があった。また中学校においては目標の6人の配置に対し約8ヶ月の不在期間があった。特別支援対象児童生徒(中学校28名、小学校64名)に対して不在期間においては十分な支援を行うことができなかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	対象となる児童・生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		85%	80%	85%	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	対象となる児童生徒の保護者に対し、支援員の配置によって子どもの学校生活や学習上の困り感が改善されたかについてアンケートを実施したところ、「改善された」「どちらかというと改善された」の数値の合計が84.6%となり、目標を達成した。今年度、新しく入った支援員もいたが、研修会や講話を開催し講師より助言を貰うだけでなく、研修会では、小中の支援員でお互いに意見交換し小中連携につなぐことができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①アンケートの記述欄には、教育サポーターの関わりについて概ね肯定的な内容が記されていた。しかし、今後の支援に係る要望として小、中学校ともに、「サポーターの方との情報共有の場がほしい。中学生になり学校での事が見えない」など子どもとの関わり方に対する要望やサポーターとの面談を希望する要望があげられた。 ②毎年度数人サポーターが新規採用となり子供たちへの対応能力に差があった。新規採用の方で、継続できず、半分の支援員が変わった学校があった。	①新規のサポーターに変わり、悩みをなかなか相談できない方もいたので、校内でベテランサポーターの方に相談していた事や教えてもらう等、校内での連携をさらに図る機会を持つ必要がある。今後、研修のみならず、教育サポーターの方が、学校を超えた連携をする機会を持つ必要がある。 ②児童生徒の成長にあわせて支援状況・環境は常に変化するので、昨年度に引き続いて支援員個々のスキルアップの為の研修を実施するとともに、サポーター同士での情報交換・情報共有する場を持つ必要がある。子ども達が自立した学校生活を送ることができることを最終目標に、実態に合わせた適切な支援方法について、支援員のスキルアップを図る必要がある。
今後の取り組み方針		
①1回目の研修会では「サポーターとしての役割」特に、「自立を促す支援」について協議を深めるとともに、これまでの自分の取組、実践を通してアウトプットすることで、支援員のリフレクションする場面を設け、資質能力や意欲向上を図る。 ②支援員個々のスキルアップのための年に6回の研修を今年度も実施するが、新規採用のサポーターの方が増えたので、子ども達への対応や保護者の要望の共有等、学校を超えて、情報交換やアドバイス協議ができる場を設定し、スキルアップに繋げていく。また、新年度サポーターの役割の「講演会」を実施することでどの対象児も満足する支援を受けられるようにする。 ③各学校の支援員の困り感や声を聴いたり、アドバイスできるように放課後の各学校でのサポーター同士のミーティングに月1～2回参加する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45,935</td><td>45,213</td><td>32,931</td><td>12,282</td><td>722</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	45,935	45,213	32,931	12,282	722
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
45,935	45,213	32,931	12,282	722										
嘉手納町 45,213千円 報酬27,087千円 職員手当等18,126千円 【屋良小】 報酬9,267千円 【嘉手納小】 報酬9,966千円 【嘉手納中】 報酬7,854千円 【屋良小】 職員手当等6,369千円 【嘉手納小】 職員手当等6,925千円 【嘉手納中】 職員手当等4,832千円 屋良小7名 嘉手納小7名 嘉手納中6名 交付対象外経費 (学校行事等に係る報酬、職員手当等、共済費、旅費) 722千円														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費、旅費のみであり、支援配置事業に必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	プログラミング育成事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(イ)		
担当部署名	嘉手納町教育委員会 社会教育課	事業実施 (予定)年度	令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	ICT教育の充実		
事業内容	情報通信関連産業と連携し、プログラミング出前講座を放課後時間を実施し、プログラミングの仕組みや思考を体験することによりプログラミング力を養い、プログラミングへの興味関心を高めることで、将来的なIT関連産業の担い手となる児童がICTに親しむ機会確保を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R6年度				
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	12,357				
		(b)予算現額	11,002				
		(c)増減額(b-a)	-1,355	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	11,002	0	0	0	0
	B.執行済額		10560				
	うち交付金充当額		8448				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		96.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		予算額において、委託契約額の決定に伴い、契約額が当初見込みより1,355千円下がったことにより減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	町立学校にて、情報通信関連産業によるプログラミングの出前講座を121回以上の開催	目 標	(1 2 1 回)	()	()	()	
		実 績	1 2 9 回				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・小学校2校において、委託業者の提案によるロボットを使用したプログラミング講座が年間スケジュールの後半に組まれていたが、当該ロボットの設定に想定以上に期間を要し、当該ロボット講座開始前に目標回数に達することとなった。しかし、委託業者からロボット講座は規定回数を超えても実施したい旨申し入れがあり、ロボット講座開催までの期間を委託業者負担の上、講座を継続実施し、活動目標より8回増となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R6年度	R6年度	目標値 (年度)	
	参加者へ体験後にアンケートを実施し、プログラミングへの興味関心が高まったか(80%以上)を成果目標とする。 →プログラミングを今後も続けたいか	目 標	()	(8 0 % 以上)	(8 0 % 以)	()	
		実 績		小学校 57.0%(回収率62%) 91.8%(回答分の率)	中学生 44.4%(回収率50%) 88.9%(回答分の率)		
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	進捗状況説明	・アンケート調査のタイミングと児童・生徒の参加状況が合わず(学年毎の活動行事や部活の試合、受験直前など)により、アンケートの回収率がかなり低くなっており、信頼度が低い数字となってしまった。 ・回答分の内容からは、小中学生ともに「楽しい100%」小学校:(回収率62%「楽しい62%」「楽しくない0%」、中学生:(回収率50%「楽しい50%」「楽しくない0.0%」)、小学生「満足・やや満足」83.7%(回収率62%「満足・やや満足51.9%」)、中学生「満足・やや満足」100%(回収率50%「満足・やや満足50%」)となっている。 ・講座実施の際の参加児童生徒との関りから、かなりの手ごたえを感じているため、回答内容が実際の意識調査の内容に合っていると考える。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・小学校は、両校ともほとんど定員に達し、児童の習得レベルにも差異が大きかったため、個別対応に苦慮しながら進めた。 ・小学生は、習得レベルが高い児童は自ら課題を作り先へ進みたい状況にあり、ある程度の足並みが揃うような講座の進め方では不満が出るため、レベルに合わせたグループ分けをすることで、児童の自主的な課題整理や取り組みをより進める環境づくりが課題。 ・中学生は、初年度ということもあり、定員に達しなかったが、参加生徒の経験値の差が大きかったにも関わらず、難しいゲームアプリ作成に全員が諦めずに取り組んでいた。また、その自分が作成したゲームを本町の生涯学習フェスティバルの中で披露し、また来場者へ体験してもらうことでフィードバックすることができ、その後の課題解決に取組むことで、自信がついた。 ・中学生は、部活動や塾があるため、週1回の実施と小学校に合わせて2月末までの期間としていたが、週1回だと次回までに間延びするので週2回が良い、2月末までは受験間際で3年生の参加が厳しいなどのアンケート調査による回答もあり、改善が必要。	・小学校は、教育版マイクラフトが児童に受け入れられやすく、みな集中して取り組んでいるが、エージェントを使ったプログラミングに特化する学習になると、各段難しいとの声が上がりが、この学習が大切であるため、根気強く楽しみながら続けられるよう指導に工夫が必要。 ・レベルの高い児童生徒を伸ばすため各自のレベルに合わせてどんどん進められるよう、また、初めて体験する児童生徒は着実に進められるようグループ分けをし、同レベルでの児童生徒で切磋琢磨できるような環境設定が必要。 ・児童数が定員40名の場合、個別対応がかなり難しいことから、定員数を若干名減らして実施する。(学年も3年生以上→4年生以上へ変更) ・生涯学習フェスティバルでの各自の作品披露や体験者への説明など、一般の方からのフィードバックを得られるような場の設定を講座外で実施することで、その後の講座へ活かすことができたため、今後もそのような場を別途設定していきたい。 ・中学生からのアンケート調査の内容を受け講座回数や期間の設定の変更をする。
今後の取り組み方針		
・小学校は、教育版マイクラフトをメインで継続利用し、各児童のレベルに合わせたグループに分け、レベル内での励まし合いながら進め、習得度が上がればグループを移動するなど、目標を定めながら進められるような講座内容とする。(定員を各校5名程度減らし、手厚くなるようにする。) ・中学生は、週1回→週2回へ、期間を2月末まで→12月末までとし、集中的に講座を進める。		

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
10,560	10,560	8,448	2,112	0

```

graph LR
    A[嘉手納町  
プログラミング力育成事業委託料  
10,560千円] --> B[小学校2校プログラミング力育成事業委託料  
6,604千円]
    A --> C[中学生プログラミング力育成事業委託料  
3,956千円]
    B --> D[共同企業体：株式会社ツクリエ、株式会社コノ街デザイン  
6,604千円]
    C --> E[共同企業体：株式会社ツクリエ、株式会社ビー  
3,956千円]
  
```

The flowchart illustrates the financial flow starting from Kitanakatsu Town, which allocates 10,560 thousand yen to two separate programming education commissions. The first commission, worth 6,604 thousand yen, is for elementary schools and is paid to a joint company consisting of Tsukuri-e Co., Ltd. and Konomachi Design Co., Ltd. The second commission, worth 3,956 thousand yen, is for middle school students and is also paid to a joint company consisting of Tsukuri-e Co., Ltd. and Bee Co., Ltd.

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	嘉手納町の沖縄戦資料保存事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア 沖縄の文化の源流を確認できる 源流づくり		
担当部署名	中央公民館	事業実施 (予定)年度	令和6～7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(3)		
事業内容	戦後70年以上経過し、戦争体験者が少なくなる中で、戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に伝えていくため、戦争体験者が語る記録映像及びパネル制作を行った。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和8年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R6年度				
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	8,470				
		(b)予算現額	12,562				
		(c)増減額(b-a)	4,092	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	12,562	0	0	0	0
	B.執行済額		12,562				
	うち交付金充当額		10,049				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初、戦争体験者の撮影を7名予定していたところ、14名に増やしたため増額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R6年度				
	インタビュー撮影及び映像制作	目 標	(14名撮影 7名映像制作)	()	()	()	
		実 績	14名撮影 7名映像制作				
	パネル制作	目 標	(20枚)	()	()	()	
		実 績	20枚				
達成 状 況 説 明	・当初は7名の撮影を予定していたが、候補者が増え、14名の撮影となり撮影を実施した。 ・映像制作については、当初の予定通り、7名の映像及びダイジェスト版の制作を行った。 ・パネルは当初の予定通り20枚制作した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		目標値 (R8年度)	令和6年度			
	・インタビューの完了 ・パネル制作の完了	目 標	(80%)	(実施)	()	()	
		実 績		実施			
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	インタビュー撮影を14名、映像編集を7名分完了し、またパネルを20枚制作した。今後はこれらの映像及びパネルを活用し、民俗資料室での企画展や町内小中学校における課外授業などを実施し普及啓発に努めていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・R7年6月に制作した映像及びパネルを公開する企画展を実施予定。そこでアンケートを実施し検証する。	・アンケートの結果を確認し、展示方法等の検討を行う。
今後の取り組み方針		
・沖縄戦の実相や平和の尊さについての継承を図るため、制作物を活用した企画展や学習会に参加した方の理解度80%以上を目指す。 ・かでな未来館での展示のほか、町内学校等へ貸出を行い活用する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>12,562</td><td>12,562</td><td>10,049</td><td>2,513</td><td>0</td></tr> </table> 嘉手納町 12,562千円 → 委託料 12,562千円 → 文化財サービス 12,562千円 〔 沖縄戦資料制作委託業務 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,562	12,562	10,049	2,513	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,562	12,562	10,049	2,513	0										
資金の流 れ・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札において決定した。指名については、同様の事業を実施したことがある事業者を選定しており妥当だったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用促進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ア	
担当部署名	産業環境課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	雇用機会の確保と多様な人材の活用促進		
事業内容	就職相談窓口を開設し、就労支援を行うことで、新規就労者の増加を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	2,381	2,424	2,381	2,366	2,424
		(b)予算現額	2,381	2,424	2,381	2,366	2,289
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	-135
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		2,381	2,424	2,381	2,366	2,289
	B. 執行済額		2,381	2,410	2,381	2,366	2,289
	うち交付金充当額		1,903	1,928	1,904	1,892	1,830
	次年度繰越額		—	—	—	—	—
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		予定通り執行し、入札残について135千円の減額を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	相談窓口開設(毎週火・金曜日) 93日	目 標	(93日)	(90日)	(89日)	(93日)	
		実 績	92日	90日	89日	93日	
		目 標	()	()	()	()	
実 績							
達成状況説明	計画通り実施し、目標を達成することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (7年度)
	相談者のうち、就職が決まった人数	目 標	()	(10人)	(8人)	(8人)	(8人)
		実 績		10人	7人	4人	
	【参考指標】 相談者のうち、就職が決まった人数の割合	目 標	()	(3.0%)	(2.6%)	(2.2%)	(2.4%)
		実 績		3.9%	2.1%	6.4%	
進捗状況説明	・嘉手納町民の利用人数は延べ46人で、全体の49%となり、前年比28%減であった。 ・就職した人数は4人で前年比3人減となり、その割合は6.4%でであった。 ・後追い調査ができた人数に対する就職率は17%で、前年比8%の減であった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業を知った経緯の内、最も多かったのはチラシが33%、続いて広報かでな24%であることがわかった。 ・応募書類の書き方や面接対策、求人検索などの具体的な就職活動よりも、ガイダンスツールの希望者が多いことから、自身の興味関心や特性・特徴、向いている仕事は何か等の自己分析を望んでいる方が多いことがわかった。 ・利用者数、及び就職者数が減になっているが就職が決まった人数の割合は増えていることから、相談の対応状況については良いが、これまでの周知媒体でリーチしている層の中での対象が少なくなっているのではと推測される。 ・後追い調査できた人数が37.1%で前年比20.7%のマイナスとなった。 ・右欄にて、同事業内での周知媒体などについて記載しているが、本事業自体についても、代替事業なども検討していきたい。	・紙媒体での事業周知が主となっているため、更なる利用者増に向けてSNSを活用した周知方法を検討する必要がある。 ・新たなガイダンスツールを検討する必要がある。 ・より多くの後追い調査が行えるよう、調査方法の改善又は周知が必要である。
今後の取り組み方針		
・新たな事業周知方法として、本町の公式LINEを活用した周知を行っていく。 ・引き続きガイダンスツールを活用した相談を実施し、自己分析結果に基づいたサポートができる体制を構築する。 ・より多くの方に後追い調査が行えるよう実施方法の改善を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,289</td><td>2,289</td><td>1,830</td><td>459</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,289	2,289	1,830	459	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,289	2,289	1,830	459											
嘉手納町 2,289千円 委託料 2,289千円 株式会社タスクールPlus 2,289千円 （ 就職支援活動総合窓口業務 ）														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	廃棄物リサイクル事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ア	
担当部署名	産業環境課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和10年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	脱炭素島しょ社会の実現に向け たエネルギー施策の推進	
事業内容	ごみの排出量を削減し、ゴミ処理施設及び最終処分場の長寿命化を図るため、本町で排出される草木を回収、チップ化し、再資源化を行った。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	13,393	13,437	13,827	14,011	103,676
		(b)予算現額	16,582	13,093	14,207	13,747	80,000
		(c)増減額(b-a)	3,189	-344	380	-264	-23,676
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	16,582	13,093	14,207	13,747	80,000
	B.執行済額		15228	12051	13024	12,627	78,721
	うち交付金充当額		12183	9641	10418	10,101	62,976
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		91.8%	92.0%	91.7%	91.9%	98.4%
予算の状況の説明		入札残が生じたことから23,676千円の減額を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	目 標	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	
		実 績	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	
	リサイクラー及びバックホーの更新	目 標	()	()	()	リサイクラー及びバックホーの更新	
		実 績				更新完了	
	達成状況説明	搬入された草木ごみkgの再資源化済。リサイクラー及びバックホーの更新完了					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	草木の再資源化率100%	目 標	()	(854t以上)	(821.7t以上)	(821.7t以上)	()
		実 績		784.8t	725.84t	674.5t	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	搬入された草木ごみはすべて再資源化することができたが、目標値と比較して搬入量が少ない結果(実績)となった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・燃料販売価格が不安定な傾向にあるため、柔軟に対応していく必要がある。 ・機器が更新されたため、新機材の仕様等を理解し、円滑に運用していく必要がある。	・令和6年度においても修繕が度々発生していたため、リサイクラーおよびバックホーを更新したことによる再資源化効率の向上が見込まれる。 ・燃料の価格高騰は社会情勢に影響されるものであるため、契約時の状況からの変化に応じて契約単価を見直す変更契約も可能とする契約項目を検討する必要があるのか、契約相手との調整も必要であると考えられる。 ・新機材については、導入にあたって、使用時の詳細なマニュアル等を委託業者と共有し、理解を深めて行くことで円滑な運用が可能であると考ええる。
今後の取り組み方針		
機材の更新と、それに合わせて、受託事業者等と連携を取りつつ再資源化の効率化及び持続可能な事業実施に努めます。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
嘉手納町 78,721千円 嘉手納町 12,378千円 破砕委託料 5,565千円 かてな振興株式会社 5,565千円 回収委託料 6,813千円 かてな振興株式会社 6,813千円 嘉手納町 66,343千円 リサイクラー購入費 58,533千円 日本キャタピラー合同会社 58,533千円 バックホー購入費 7,810千円 日本キャタピラー合同会社 7,810千円														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78,721</td><td>78,721</td><td>62,976</td><td>15,745</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	78,721	78,721	62,976	15,745	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
78,721	78,721	62,976	15,745											
資金の用途、流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・回収業務は町内受託可能業者1社より徴収した見積書と予定価格との比較による随意契約、破砕業務は入札参加意向調査により他2社の不参加の申し出があったため、H26年環境省通達に則って支出先の選定を実施しており妥当である。 ・回収は一般廃棄物収集業務と比較、破砕は民間に持ち込んだ場合の処理経費と比較し、予算につきましても妥当性を確認している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	避難施設防災機能強化整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-ア	
担当部署名	総務課 管財防災係	事業実施(予定)年度	令和5年度～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	危機管理体制の強化		
事業内容	沖縄県は島嶼県であり、自然災害による被害も多いことから、町民や観光客等の災害時の安全確保を図るため、防災非常食等の計画的な導入を図る。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R5年度	R6年度			
	予算の状況	(a)当初予算額	6,733	6,951			
		(b)予算現額	6,733	6,588			
		(c)増減額(b-a)	0	-363	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	6,733	6,588	0	0	0
	B.執行済額		6733	6588			
	うち交付金充当額		5386	5270			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		計画通りに予算執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度			
	目標	町内の避難所等における備蓄品等の整備を行う。 【備蓄食料等の整備内容】 ・備蓄食料 4,050食 ・保存水(2L) 225本 ・保存水(500ml) 8,100本	入替計画に基づき 備蓄食料を整備	入替計画に基づき 備蓄食料を整備			
		実績	入替計画に基づき 入替を実施	入替計画に基づき 入替を実施			
	目標	()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明	沖縄県は島嶼県であり、災害時において必要な防災備蓄品を最大限備える必要があることから、防災非常食等の計画的な導入を行い、災害時の町民や観光客等の食料及び飲料水等の確保を図った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	年1回以上防災訓練等を実施	目標	()	(1回)	(1回)	()	
		実績		1回	1回		
	アンケートを実施し、備蓄の重要性を感じたとの回答割合:「80%以上」	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	
		実績		92%	97%		
	進捗状況説明	防災非常食等の計画的な導入を図った。また防災に関する出前講座を行ったほか、町まつり会場にて防災ブースにて防災啓発活動を行い、アンケート調査を実施。防災備蓄食料の重要性について97%の回答を得ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今後も、備蓄食料等整備計画に基づき、計画的に備蓄食料等の整備を行うとともに、防災啓発活動等を通じて備蓄食料の重要性を訴える取組を継続していく。	・備蓄食料等の入替については、備蓄食料等整備計画に基づき、年次毎に入替業務を行う。 ・防災への啓発活動等をまつりイベント会場等で防災ブースを設置して啓発活動を継続して行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・野國総管まつり会場において、防災ブースを設置し、賞味期限が近付いた備蓄食料等を配布し、啓発活動を行いながら入替を行う。 ・沖縄県広域地震・津波避難訓練等において、町内団体へ参加を促し、備蓄食料等の確認を行い、配布することで普及啓発を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>6,588</td><td>6,588</td><td>5,270</td><td>1,318</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,588	6,588	5,270	1,318	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,588	6,588	5,270	1,318											
嘉手納町 6, 588千円 → 消耗品 6, 588千円 → (有)昭和事務機社 6, 588千円 【 備蓄食料等購入 】														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適切な規模であった。 ○費目、使途については生産段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												